

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成30年9月20日（木） 20時30分～22時30分

2. 開催場所：Shot Bar 周太郎（大阪府豊中市曾根西町3-5-33）

3. 関係団体等：なし

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：土畑重人氏（京都大学大学院農学研究科助教）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは、昆虫の社会性をテーマとして行われた。ゲストからは、まずアミメアリにおける“働かない（働けない）アリ”の研究が紹介された。アミメアリは日本でもよく見られるアリだが、女王がおらず、巣のすべてのアリが単為生殖で子どもを作り、すべてのアリが働きアリとして行動するという珍しい性質を持つ。アミメアリにおける“働かないアリ”は、一般的なアミメアリとは遺伝的に異なる系統に属する突然変異体であると考えられ、働かず、卵を多く産む。一般的なアミメアリの巣に働かないアリが侵入した場合、働かないアリの数が増える一方で働くアリが減るため、やがて巣は滅亡してしまう。働かないアリは別の巣にも移動するため、働かないアリの遺伝的な系統は続いていく。ゲストによれば、このアミメアリの事例は、人間の社会における公共の利益と個人の利益の対立と類似したものであるとのことだった。

そのほか、アズキゾウムシの産卵の環境に関する研究や、アリの採集をどう行っているかなど、参加者から質問や発言があいついだ。昆虫と人間は生物としては大きく異なるが、同様の進化のプロセスを経ている点では共通していると考えられる。昆虫の研究についてだけでなく、人間の社会性についても議論が盛り上がった一夜だった。

6. 参加人数：

講演者等：3名

その他の参加者：9名

7. 特記事項：

会場となった「Shot Bar 周太郎」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。また、ゲストのドリンクについてサービスしていただいた。